SHIMANE AKAHIGE BANK

# 島根の地域医療

2010／10／12　第３４号

発行者
島根県健康福祉部
医療政策課医師確保対策室

## 今回の紙面

◆地域医療最前線NO.39《白石吉彦先生》
◆看護師さんのページNO.19《加藤病院看護部》
◆研修医のページNO.23《播摩裕先生》
◆赤ひげ先生《近藤強先生》
◆島根大学「地域医療支援学講座」NO.2
◆中高生への働きかけ
◆女性医療職支援の取り組み

地域医療最前線

NO.39

## 隠岐島前病院

院長　白石吉彦

隠岐は島前（どうぜん）（人口約６，８００人）と島後（どうご）（人口約１６，９００人）よりなり、本土の境港または七類港から50㎞（島前）～70㎞（島後）、フェリー（２～３便）で２．５～３時間離れています。冬季を除き高速船（１～２便）を利用すれば１～２時間（経路による）です。島前と島後はフェリーでおよそ１時間、最短距離で約15㎞離れています。

島前は西ノ島（西ノ島町３，４８６人）、中ノ島（海士町２，５８１人）、知夫里島（知夫村７２５人）の３島に分かれています。島前は対馬暖流に洗われる西海岸に高さ２００～３００メートルクラスの断崖絶壁が続き、西ノ島の国賀、知夫里島の赤壁などは、すばらしい海岸景観です。また中ノ島は後鳥羽上皇、西ノ島は後醍醐天皇・文覚上人の遺跡や伝説が残る「太平記」の島です。

島前の３島には開業医がなく、医療機関は各島にそれぞれ西ノ島町立浦郷診療所、海士町立海士診療所、知夫村立知夫診療所があります。また３島の中核的医療機関として、昭和57年に島前町村組合立島前診療所が設立されています。平成13年に増改築により隠岐島前病院となりました。現在島前で入院可能な施設は、この隠岐島前病院の44床だけです。

現在は５名の総合医が隠岐島前病院と同じ西ノ島にある浦郷診療所、隣島の知夫診療所の医療を担っています（地域ブロック制として全国に先駆ける地域医療のスタイルと自負しています）。また、隠岐島前病院では、内科外来という名前のよろず外来、整形外科、ペインクリニック、皮膚科、一部小外科などの外科外来を常勤医で担っています。平成21年度いっぱいで腹部外科医が不在となったため、現在は手術室を使った、腹部外科の手術は行っていません。検査は胃カメラ、大腸カメラなどの内視鏡検査、腹部エコー、心エコー、甲状腺、整形外科などの表層のエコー検査を行っています。常勤の放射線技師不在のため、ＣＴも医師が撮影します。ＭＲＩはなく、血液透析はありません。総合医のみで対応しかねる疾患も多々あるため、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、精神科、整形外科のパート診療を行っています。

小規模離島であり、救急から一般病床での治療、療養型でのリハビリ、在宅医療をささえる往診などすべての医療に関わることができます。すべてを完結することはできませんが、とりあえず診て、できることはやる、できないことは必要なところへ紹介するというスタンスで離島医療を行っています。総合医としてのニーズがあり、複数制をとることによって医師一人に負担がかかりすぎることなく、みんなでこの地域の医療をささえるために切磋琢磨しながら日常診療に向っています。看護師を中心とするコメディカルスタッフも、臓器別専門医療ではなく、患者さんに寄り添う形で医療にたずさわっています。昨年は当院での総合的な医療の見学希望者が多数あり、医学生・看護学生など計70名、約２００日の受け入れを行いました。

周りを見渡すと大山隠岐国立公園の中で生活するのですから、海も山も豊かで、四季折々の風景、収穫物（魚だけではありません！鳥賊（いか）、海苔、貝、山菜などなどほんとにすごい）を楽しむことができ、人

間らしく豊かな環境の中で仕事を楽しむことができるのです。ぜひ！楽しい島前に来てみませんか？

（文中の人口は平成17年国勢調査結果）

## 看護師さんのページ

NO.19

医療法人仁寿会
加藤病院
看護部課長　城納　清恵
中平　右子
小原　千春

医療法人仁寿会は、加藤病院を中心に診療所、介護老人保健施設、在宅療養支援センター（訪問看護、ホームヘルパー、グループホーム、ケアマネージャー）が連携し、医療・介護サービスを地域に提供しています。

加藤病院は、病床数85床（急性期病床27床（うち亜急性期病床10床）、医療型療養病床58床）、看護基準は平成22年4月より急性期病棟は10対1、療養病棟は20対1を取得し、それぞれの病棟の役割が発揮できる体制を整えています。看護部は、看護単位3単位（外来、急性期病棟（亜急性期含む）医療型療養病棟）で看護スタッフ数67名（介護士、歯科衛生士、看護補助者含む）です。

小規模病院ですが、地域の医療・介護を担う役割は大きく、少しでも地域住民の皆さまが健康で安心して暮らせるよう、職員一丸となって昼夜頑張っています。

看護部では、今年度はチーム医療に重点を置き、入院から退院までの「退院支援計画書」を多職種協働で作成し、退院後の患者さまの支援のためのカンファレンスを積極的に行っています。この結果、患者さまが抱えているさまざまな問題点が明らかになり、患者さまに最適な支援策が導きやすくなりました。今後も、主治医をはじめ、多職種との意見交換を重ね、私たち看護部は「目指すべき看護とは何なのか」を振り返りながら、日々の業務に活かしていこうと思っています。

このように、私たち看護部が働きやすい環境にあるのは、仁寿会の育児支援、介護支援が充実しているからです。特に厚生労働省島根労働局から山陰地方の医療機関で初めて次世代育成支援対策事業所として「くるみんマーク」の認定を受けました。

また、本年7月には、日本医療機能評価機構の病院機能評価をVer.6で更新受審し、看護機能のレベルアップを図っています。私たちは管理職として初めての機能評価受審であり、緊張と不安・不眠の連続でしたが、終わってみると受審までは辛かった反面、今は満足感と業務への自信へと変わっています。

今後も私たち看護部は、地域の医療を看護職の立場から積極的に支援し、地域住民の皆さまが健康に過ごせるよう看護技術、知識、人間性を高めていくよう日々研鑽していきたいと思います。

## 研修医のページ

NO.23

松江市立病院
一年目研修医
播摩　裕

実家が大阪で大学は京都と、ずっと関西で生活してきた私ですが、松江に来て半年になろうとしています。最初は大学以外のところで研修をしたい。自分の知らない地域の医療を見たい。そういう考えで研修先を選んだ結果、京大病院からの派遣という形で1年間の予定でこちらに来ることになりました。知らない土地、初めて聞く言葉、研修医が少ない、教科書や講義では学べなかった実際の臨床など、最初は戸惑うことも多かったですが、先生方や看護師さん、その他のスタッフの方たちが、時には厳しくも、やさしく接してくださり、少しずつですが、慣れてきたかなぁと思っています。

私が学生の時に見学してきた病院は比較的医者の多いところばかりでした。島根は医師不足に悩んでいる地域であり、ある程度予想はしていたものの、想像以上に一人の医師の仕事量が多く、他のスタッフの方たちの協力なしにはやっていけないと実際に研修して痛感しています。そういった状況の中でも多くの方に教えていただいたり、どういう風に動くのかなどを見たりして毎日多くのことを学ばせていただいています。また、時には息抜きをしたり、患者さんからも「頑張ってください」、「ありがとう」と言っていただいたりと、楽しく研修をさせていただいています。まだまだ学ぶことが多く、うまくいかないこともありますが、毎日が経験だと思って頑張っています。

来年は京都に帰り、その次はどこに行くかはまだ決まっていませんが、何かの縁があって松江に来たと思っ

ていますし、将来一人前になることができた時には、またこちらの医療と関わることができればと思っています。そのために残り半年ですが、松江市立病院での研修を充実したものにできるよう努力していきたいと思っています。

## 赤ひげ先生

### 夢、人との出会い、そしてキャリア統合

県立こころの医療センター
近藤　強

平成22年7月からこころの医療センターで勤務しています。島根で勤務することになった経緯を思い返してみるに、これまでの私の人生は、おとぎ話のようではありますが、自分に夢をもたらしてくれる人物と出会い、そして職場が決まっていくというものでした。

第一は、医学部卒業後に国際医療センター国府台病院の斉藤万比古先生に出会い、児童精神医学のレジデントを2年経験しました。精神科医として児童思春期領域で働きたいという思いが膨らんだように思います。

第二は、レジデント修了後、たまたま家族療法と地域精神医療を中心に進めている滋賀県にある湖南病院の楢林理一郎先生と出会い、6年ほどそこで家族療法の基礎はもちろん、精神障がい者の方を地域で支援する仕事に従事することになりました。

第三は、湖南病院で働くなかで、米国ロチェスター大学精神科のスザーン先生に出会い、そこから留学の道が開けました。家族療法を開発した中心人物は多くが精神科医の中でも児童精神科医です。また、彼らの多くは精神障がい者を地域で見る精神科医でもあります。ロチェスター大学の院生として家族療法のカウンセリングを学びました。

一方で、大学院卒業後の医師としての人生については、それまでの臨床経験や留学で学んだことをどう生かしていくのかを悩んでいましたが、前述の偉大な精神科医の歴史を振り返り、今までの出会いや自分の（現在や研修医時代の）夢を考えてみたとき、家族の支援・治療、地域との連携や児童思春期精神医学など、これまでの経験を統合的に実践できる場所が島根であると思いました。

夢が人の出会いを紡ぎ出し自分にチャンスを与えてくれる、なんてすばらしいことだろうといつも実感します。

島根でもその気持ちを大事にして精一杯がんばります。応援をよろしくお願いします。

## 島根大学「地域医療支援学講座」【NO.2】

### 平成22年度若手医師ステップアップ研修会の報告

島根大学「地域医療支援学講座」講師
クリニカルスキルアップセンター長
狩野　賢二

医師の初期臨床研修が平成16年度から必修化となり、島根県では平成17年度から研修医等定着特別対策事業を開始されました。また、その一環として平成20年度から「若手医師ステップアップ研修会」を島根大学医学部へ委託して開催されるようになりました。本年度は、8月28日（土）にニューウェルシティ出雲において多数の医学生、研修医、指導医の参加を得て、会場が一杯の盛会となりました。

第一部は講演会が企画され、地域医療支援学講座の谷口栄作教授による「医師としてのキャリアアップを目指して」と、隠岐島前病院の白石吉彦病院長による「地域医療実践ノウハウ編　プライマリケア小技集」のご講演がありました。その後、第二部では「救急で役立つ超音波の実際」として、超音波シミュレーションを使用した救急現場でのFASTの実技指導と、超音波装置の実機を使用した心エコーおよび腹部エコーの実技指導をクリニカルスキルアップセンターが中心となり行いました。

最近では超音波装置の低価格化と小型化により聴診器に匹敵するツールとして、様々な医療現場で活用できるようになりました。しかし、超音波診断では解剖学的な知識のほかにプローブ操作やたくさんの機能を操る必要があります。今回の実習が十分なものとは思いませんが、これをきっかけにクリニカルスキルアップセンターのシミュレータを活用して、若手医師の先生方がスキルアップを図って頂きたいと思います。

## 中高生への働きかけ

島根県では、将来の医療従事者を育成するための取り組みとして、中学生・高校生を対象に次の事業を実施しています。

**高校生医療現場体験セミナー**

夏季と春季の年2回実施しており、今夏は松江赤十字病院、公立雲南総合病院、県立中央病院、益田地域医療センター医師会病院に協力を頂き、41名の生徒が受講しました。

見学や救命救急体験、医療機器操作、医療従事者との意見交換などを行い、「地域医療の状況を知ることができ、医療にさらに興味を持った」「医療現場を見ることで医師という仕事を身近に感じることができ、将来医者になりたいという思いが強くなった」などの感想がありました。

救命救急体験の様子

**夢実現進学チャレンジセミナー**

医学部や難関大学進学を目指す高校2年生を対象にした3泊4日の勉強合宿です。合宿3日目には理系生徒40名が医学部進学の参考となるよう、島根大医学部で手術部見学や医師の体験談聴講などを行い、「もっと見学や実習をしたい」「手術見学は衝撃的だった」など率直な感想がありました。

**中学生地域医療現場体験**

より早期から医療従事者や地域医療への理解を図るため、今年度から実施しています。夏休み期間を中心に県内7医療機関で現場体験を行います。

若年者の医療（従事者）への関心は着実に高まってきていると感じます。こうした取り組みを通じて島根の地域医療を支える若者が一人でも多く育ってくれるよう願っています。

【医療政策課　仲佐】

## 女性医療職支援の取り組み

7月6日、内閣府認証NPO法人イージェイネット代表理事である瀧野敏子先生を講師に迎え、「女性医師支援から全ての医療スタッフのワークライフバランスへの進化をめざして」と題した講演会が、島根大学医学部で開催されました。

瀧野敏子先生

この中で瀧野先生は、「ワークライフバランスは福利厚生ではなく社会的必然～日本人、もっとシアワセになろうよ～」と説かれました。そして、医療従事者の確保・定着のための取り組みとして、フレキシブルな勤務体系の導入や、24時間・年中無休で病児保育可能な院内保育所の設置など、先進的な事例を紹介されました。

平成22年4月から島大附属病院では、「女性スタッフ支援室」がリニューアルされ「ワークライフバランス支援室」が開設されています。「情報発信」「キャリア教育」「相談窓口」「保育支援」「時短勤務の提供・復帰支援」の5つを柱に取り組みを進められており、全国の医学部附属病院の中で唯一、働きやすい病院評価事業（全ての医療従事者にとって働きやすい病院かどうかをNPO法人イージェイネットが第三者認証する事業）の承認を受けた病院として全国15病院の一つとなっています。

ワークライフバランスをどう実現させるのか、組織の管理者、同僚、本人も含めた意識改革や、働く環境の整備を地道に、そして具体的に進めていく必要性を再認識しました。

【医療政策課　藤井】

**島根県で勤務していただける方を紹介してください**

友人・知人等に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供し、県内での勤務を支援します。

**医師募集・地域医療ツアー参加者募集**

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。 また、地域医療の視察ツアーを実施しています。旅費は県が負担します。お気軽にお問い合わせください。

**「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ**

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501　松江市殿町１番地　島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室
TEL 0852-22-6683　FAX 0852-22-6040
E-Mail iryou@pref.shimane.lg.jp
ホームページ：島根の医師確保対策　検索